


教材・支援機器活用実践事例フォーマット（小中高版）

	実施年度	平成 27 年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	「こんな時どうする？」	
	授業における教師のねらい	①場面や状況の理解する力の向上 ②他者の感情や意図の理解 ③状況に応じた行動を身につけること	
	授業における子どもの目標	○絵の場面を見て場面や状況が分かり、相手の気持ちを考えたり知ったりする。 ○場面や状況に応じた行動の仕方が分かり、自分が選んだ言動を、実際にロールプレイで練習することができる。	
子どもについて	学級・学校・学年	通級による指導（自閉症通級指導教室） 小学生 高学年	
	対象の障がい （種別・診断名等）	自閉症	
	授業形態	小集団学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	思ったことをそのまま友だちに伝え、授業時間や休み時間にトラブルになることがある。本人は、友だちと仲良くなりたいとの思いがあるが、周囲と友だちができないことで悩んでいる。人間関係の形成に課題があり、場面や状況の理解、他者理解、状況に応じた行動等を身につけることが必要である。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「こんな時どうする？」 (絵)	【画像】 
	活用のねらい	人間関係のトラブル等がある児童にとって、落ち着いてからその場面について話し合うこともできるが、場面が自分のことであると、客観的に捉えて考えることが難しい。また、本人への事後指導になるので、自己肯定感が下がる恐れがある。 そこで、トラブルになる要素が関係する場面を絵にし、主人公（緑君）として考えることで、落ち着いて客観的な視点で児童が考え、教師側も本人の場面や状況の捉え方、言動の選択を理解することで、本人への適切な指導を行うことができる。また、本人の生活状況、学校行事等の関連から、予想される場面を一緒に考えることで、予防的支援につなげることもできる。	
授業における支援・教材の配慮事項		○画用紙一枚程度に描き、小集団でも見える大きさを確保する。 ○描く内容を精選し、問題部分が理解できるようにする。	
子どもの変容や評価		本人から「自分が言動をちょっと控えるようにし、みんなと楽しくやる方法を考えていくことが大事。」「人の気持ち、周りの空気が読めるようになってきました。」等、学習の中で人との関係を学び、実践する様子が見られました。在籍校担任とも内容については連携し、担任から「身につけたことが学校生活の中で生かされています。特に、友だちとの関係については、大きな成長が見られます。」とのこと。 通級も終了し、在籍校で友だちと楽しく学校生活を過ごしています。	